



鶏 けいめい 鳴

2008年8月10日(第16号)

イエスの言葉

『人は新たに生まれなければ神の国を見ることはできない』

聖書(ヨハネ福音書3章3節)

牧師 河合裕志

ある夜のことユダヤ人議員のニコデモがイエスを訪ねた。これは勇気のいる事。イエスは何百年も続いてきたユダヤ教社会を破壊する危険人物とマークされていたから。そんな人物との交際がわかれば村八分にされかねない。だから人目につかない夜を選んだ。そうしてまでも彼はイエスに会って見たかった。人々のウワサではなくこの目で確かめたい。イエスは本当のところどんな人物か。

ニコデモは言った。「ラビ(先生)、わたしどもはあなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければあなたのなさるようなしるしを誰も行うことはできないからです」。これはお世辞の言葉か。そうではないだろう。かねてそう思って尊敬の念を抱いていた。だからこうしてわざわざ訪問している。

イエスはこの夜の来訪者に、しかも向う側の人間に対して多少なりとも不安を感じただろうか。油断はできないぞと。そんなことはなかった。むしろよく訪ねて来てくれたとの思い。なんとかこの指導者も救いに与ってほしい、そんな思いからイエスは口を開いた。「はっきりしておく。人は新たに生まれなければ神の国を見ることはできない」。

イエスは変なことを言う、新たに生まれるなどと。実に謎めいた不思議な言葉。よくわからない。ニコデモはそう言われて素直に反応した。「年をとった者がどうして

生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか」。これは若い教師の言葉を白髪となったニコデモが冷かしたものとすることはないだろう。彼には新たに生まれるとはこれしか考えられなかった。

イエスはニコデモの返答を馬鹿にせず重ねて言って聞かせた。「はっきりしておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ神の国に入ることはできない」。大分はっきりして来た。新たに生まれるとは水と霊とによって生まれること。そして水と霊とによって生まれるとはバプテスマ(洗礼)のことだと教会は2千年の間信じこれを神の国に入るための大切な聖礼典として守って来ている。それに違いないだろう。イエスの十字架はわが罪の犠牲ですと信じる者に洗礼の水が注がれ霊=聖霊が働いてその者を新たに生まれさせる。罪の赦しを与え、神の国=天国に国籍を持つ者とする。これが新生。こうして人はどんな時にも希望をもって生きる者とされる。

集会案内

| | | |
|-------------|---------|----------|
| 主日礼拝 | : 毎日曜日 | 午前10時15分 |
| こどもの教会 | : 毎日曜日 | 午前9時 |
| 高校生会 | : 毎日曜日 | 礼拝後 |
| 婦人会・壮年会 | : 第2日曜日 | 礼拝後 |
| 聖書を学ぶ集い | : 第4水曜日 | 午前10時 |
| オリーブの会(読書会) | | |
| | : 第3月曜日 | 午前10時 |